

マス
デ私共ノ案ニ就テ大要ヲ申上ケマスト次ノ通りデアリマ
ス

×欠勤者ニハ支給シテ賞ハナクトモ良イコト、欠勤率ノ
基準ヲ何年度ノ欠勤者調ニ置クカニ就テハ種々調査ノ
結果大體昭和九年度ノ欠勤調カ最モ適當ト認メラル、
ニ付之ニ依ッテ率ヲ定ムルコト

×給與ハ本給日給ニ比例シテ支給セラルレ度々事
但ニ更改給實施ノ際更改給ニ依ラスシテニ削減ヲ採ワ
タ人違ハ現在ノ給料カ更改給者ニ比シテ高イ故ニ此ノ
人違ヘノ給與ハ年功加俸ヲ控除シタ額ニ對シテ算定シ
テ賞ヒ度イ事

×算定率ヲ八分トセラレシタ事
是ハ昭和九年度ノ欠勤調ニ依ッテ算定シタ率デアルカ

昭和九年度ノ皆勤者ノ給料ニ對シテ四十万円ノ下度七分八厘トモ弱ニ該當ス
ルヲアル從ッテ之ヲ切上テ八分ノ率トスルコトニセラレ度イト希望スル次第
テアル

×算定給料基準ヲ昭和十年四月一日ノ給料トセラレ度々事 尚四月以後ニ於
テ昇給セシ場合ハ東進率トセラレタマヲ希望スルモ之ハ支給總額カ四十万円ナルカ故
ニ強ヒテ要求スルモニアラス

大野労働課長

欠勤率ノ算定ハ昭和九年度ノ欠勤者ヲ基調トスル事ニ就テハ異存ハ無イ又
算定給料基準ヲ四月一日トスルコトモ妥當ト考ヘルカ四月後ノ昇給累進ノ
割合ハ困難ノ様ニ考ヘル

中島喜三郎

本給ノ八分ノ率ヲ決定スルナラハ昇給累進ノ割合ヲ定ムルハ容易ナアル

大野労働課長

此ノ問題ハ充分研究スル事ニシタテ